

平成23年度 能勢高校の将来を検討する会議 経過報告

1 協議課題

能勢町小中高一貫教育の改善・充実に向けて

- (1) 能勢高校を含めた能勢町の教育の在り方
- (2) 連携型中高一貫入学者選抜の在り方
- (3) 平成24年度の協議の進め方

2 経過

- 第1回 平成23年 6月 5日
第2回 平成23年 8月24日
第3回 平成23年10月 6日
第4回 平成23年11月21日
第5回 平成23年12月19日
第6回 平成24年 1月12日
第7回 平成24年 2月 8日
第8回 平成24年 3月19日

3 委員

能勢町教育員会教育長	前田 満	大阪府立能勢高等学校長	真鍋 政明
能勢町立西中学校長	畑 鉄也	能勢町立東中学校長	熊谷 陽子
能勢町立天王小学校長	加堂 恵二	能勢町立岐尼小学校長	福中 満
能勢町立久佐々小学校長	奥畑 司	能勢町立田尻小学校長	関口 英明
能勢町立歌垣小学校長	龍見 敬明	能勢町立東郷小学校長	稲田 喜之

(事務局)

能勢町教育員会学校指導課長	後藤るみな
能勢町教育員会学校指導課参事	遠藤 克俊
能勢町教育員会学校指導課主幹	三好 幸松

(オブザーバー)

大阪府教育委員会教育振興室高等学校課主任指導主事

植木 信博

*大阪府教育委員会高等学校課長

和田 良彦

能勢高校を応援する会副会長・能勢町議会議長

今中 喜明

*大阪府議会議員

上島 一彦

*第8回のみ参加

4 協議内容

(1) 能勢高校を含めた能勢町の教育の在り方

①大阪維新の会から出されている府立高校の統廃合に係る条例案への対応として、能勢高校存続の必要性について協議し、これまでの教育実践やその成果を鑑み、能勢高校が能勢住民をはじめ、大阪府にとり必要な学校であることを確認した。

- ・能勢高校は、総合学科や能勢地域小中高一貫教育（連携型中高一貫教育）のシステムをとることで、地元の多様な子どもたちが必要とする多様な教育を的確に提供できる学

校であること。

- ・小規模校のメリットを最大限に活用し、習熟度別授業など生徒一人ひとりに応じた丁寧な教育を実践し、子どもたちの様々な力を伸張させていること。
- ・平成16年度からの中高一貫教育・総合学科への改編を契機に、転退学者・懲戒者の減少等に見られる生徒指導力の向上、大学進学者の増大と進路未決定者の減少に見られる進路指導体制の構築、ユネスコスクールに認定されるなど国際交流の実績等が顕著であること。
- ・平成23年度の高校生観光甲子園への応募・本選大会への出場を契機に、能勢町観光協会をはじめ行政機関や地域との本格的な連携が始まり、高校生が能勢町の活性化や振興に大きく係わるようになったこと。
- ・能勢高校が地元にあることで、地元住民のニーズに則った教育を実現しやすいこと。さらに、子どもたちが適当な時間で通えるとともに多額の交通費を費やすことなく通える学校であること。

②入学者選抜での定員割れを解消する方策についての協議では、能勢高校を中学生が入学したい学校、保護者が子どもを入学させたい学校としていくためには、新たに特色づくりや魅力づくりを行うことにより、中学生や保護者が能勢高校に対するワクワク感や期待が持てるような取組みを進めていく必要がある。また、連携地域の豊能町への拡大等をも検討すべきである。

- ・中学生の数の減少、公立高校及び私立高校の授業料無償化、クラブ活動目的での高校選択、大規模校や都会へのあこがれなどにより能勢高校への入学者が減少しているが、まずは、能勢町の子どもたちの能勢高校への入学率を高める取組みを行うことが重要。
- ・大阪府教育委員会に対しては、新たな再編整備計画の中で、農業や環境、地域交流、国際交流、学力向上、進路実績など、これまでの能勢高校の教育成果を踏まえ、学科改編も含んだ新たな特色づくりへの参入を要望する。
- ・新たな学科については、能勢町に加え、豊能町、池田市、箕面市など、能勢町外からの子どもたちや保護者のニーズにも応えることのできる魅力あるものするとともに、兵庫県の川西市や猪名川町、京都府の亀岡市など近隣地域の中学生の受験が認められる特色あるものが望まれる。
- ・能勢町教育委員会に対しては、平成27年度からの小学校、中学校の統合を見据えた新たな能勢地域小中高一貫教育を有為なものとするため、意欲の高い生徒を能勢高校に入学させ、将来の能勢地域を支える人材を育てることのできる中高連携システムの構築を要望する。

*通学での安心安全の確保や放課後の講習等終了後の下校が可能となるよう通学バスの提供、通学費の補助、給食サービスや寄宿舎等の提供なども含む。

- ・福井県型の連携型中高一貫教育（連携中学校3年時に連携クラスを設け、高校教員による高校の内容を先取りした授業を実施。簡便な入試により高校に入学させる。）をはじめ、中高で連続した教育課程設置による学力向上、地元から高校への様々な支援など、他府県の取組みも参考とするべきである。
- ・能勢町外の生徒については、通学での時間的・経済的な負担を軽減するための通学バス

を導入するべきである。

(2) 連携型中高一貫入学者選抜の在り方

①現在の選抜制度の最大の課題は、学力検査を伴わない簡便な入試の趣旨を中学生や保護者に十分理解させていないことである。また、平成25年度選抜から学力検査の導入を含めて検討を進めたが、学力検査の実施が困難であると判断し、選抜に係わらない学力テストを導入することとした。なお、平成24年3月16日(金)午前10時に浄るりシアター小ホールにおいて、連携型中高一貫入学者選抜での合格者及び総合学科前期選抜での能勢町の合格者に対し、大阪府学力テストの問題(国語・数学・英語)を用い、学力到達度調査を実施した。また、監督と採点は中高の教員が担当した。

- ・学力検査がないことから、学習意欲の低い生徒の能勢高校への入学や中学生の学習に対するモチベーションの低下につながっている。このことは、他府県の連携型中高一貫校でも同様の傾向で、選抜における共通の課題となっている。
- ・中学校で必要な基礎学力を身につけていることが簡便な入試の前提にもなる。また、能勢地域中高一貫教育設立当初においては、中高一貫教育における入学者選抜は、入学志願者が自らの能力・適性や今後の学習・進路について積極的に考える機会となるよう創意工夫すべきであるとしている。
- ・基礎学力が身につけていない児童・生徒が多数在籍している。これは家庭環境の影響によるところが大きい。小中高一貫教育の中で確かな学力を向上させる必要がある。小中学校では、無償で英検・漢検を受験させるなど、教育委員会は、学力向上に向けての施策を施している。
- ・能勢高校では、前期選抜において総合学科選抜を実施しており、総合学科選抜日に学力検査を併せて行うことは困難である。さらに大阪府教育委員会からは、中高一貫選抜用としての問題を作成することは、困難であると回答を得ており、総合学科選抜と同じ選抜方法で中高一貫選抜を実施する以外には学力検査の導入は無理であろうという結論に至った。
- ・学力検査の導入はしないが、上記に述べたように学力検査と同等の効果を得るため、入学者選抜に係わらない学力テストを平成24年度選抜から導入することとした。このテストについては、小中高連続した教科シラバスにもとづき、学習到達度を測定するものが望ましいが、平成24年度については、大阪府の学力テストを利用することとし、実施の日時・方法については中高で検討する。

②自己申告書での志願の理由における〈 〉内の文言を〈将来の夢や進路希望を見据え、高校で学びたい学習内容、身に付けたい力、頑張りたいことなど、志願する動機や目的〉とすることを大阪府教育委員会に要望する。

- ・現行の様式では、志望の理由〈当該高等学校、学科、中高一貫教育など、志願する動機や目的〉となっているが、より具体的な理由を記入するため、〈将来の夢や進路希望を見据え、高校で学びたい学習内容、身に付けたい力、頑張りたいことなど、志願する動機や目的〉とすることが望ましい。

- ・個人面接と関連付け、面接時には、この志望の理由をもとに口頭での自己PRを行わせる。（自己PRについては24年度選抜から実施する）

③小論文の出題テーマについて、総合学科選抜に準ずるなど、身近なものとし、字数を600字とすることを大阪府教育委員会に要望する。

- ・これまでの出題テーマについて、能勢町に係るものでありながらも、特定の分野について問うものが大半であり、中学生が考察し、考えや意見をまとめる上で、困難さが見受けられた。このため、総合学科選抜のように、身近であり、これまでの自分の体験を通じての回答を書かせることができるテーマとするとともに、自分の考えや意見を簡潔にまとめ、表現する力を推し測ることから、字数を600字とすることが望ましい。

④調査書について連携中学校長は、総合所見欄に日本漢字能力検定及び実用英語能力検定の取得級を記入することとする。

- ・能勢町では、学力向上を図るため、日本漢字能力検定及び実用英語能力検定の取得に向けての学習を推進しており、小中学校では、平成23年度から年1回、受検料を負担するなど、受検の機会を提供している。
- ・能勢高校においても、両検定の取得を推奨していることから、両検定に係る学習は、小中高一貫教育の中で、つながりのある取組みとなりつつある。
- ・総合所見欄に取得状況を記入することにより、高等学校入学後の指導につなげていきたい。（連携中学校長は、連携型中高一貫選抜への志願者を含め、全員の調査書について記入する。）なお、入学者選抜の資料としては扱わないが、今後の小中高での取組み状況等を踏まえ、検討していくものとする。

⑤これまでの選抜での志願状況を鑑み、当該年度の能勢町立中学校の3年生の在籍数の50%を定員の目途とすることを大阪府教育委員会に要望する。

- ・平成16年度から平成23年度までの選抜（総合学科選抜を含む）で、能勢町立中学校3年生のうち、本校に入学した割合は34～45%であること、少なくとも連携中学校生の半数を入学させたいことから、当該年度の中学3年生の在籍数の50%を定員の目途とする。なお、平成25年度選抜では、120人の中学3年生の在籍が予定されることから、60人を定員とする。

(3) 平成24年度の協議の進め方

①第8回の会議においては、上島一彦大阪府議会議員から教育基本条例に係る大阪府議会の動向等について報告を受けた。また、高等学校課長から本校に対する府教育委員会の認識についての説明を受けた。

- ・府立学校条例第2章の府立学校設置等においては、学校が所在する地域の特性その他の事情を総合的に勘案し、効果的かつ効率的に配置されるよう努めるものとする旨の条項が追記されるとともに、3年連続定員に満たない学校については、統廃合から再編整備に文言が修

正された。

・府教育委員会としては、能勢高校が能勢地域にとり必要な学校であると認識し、その方向で再編整備も考えている。平成24年度あらたに高校改革部署ができ、府立高校の配置を見直すこととなる。能勢高校においては、地元の意見をバックアップしていくので、より良い方針を提案することが必要。

②能勢高校校長から下記のとおり「新たなる能勢高校と中高一貫教育の創造に向けての骨子」の提案があった。また、当会議については、平成24年度も継続し、この提案をもとに能勢高校を含めた能勢町の教育の在り方について具体的な検討を進めいくこととした。

- ・能勢高校のめざす教育
 - * 少人数教育を基盤に、基礎学力の定着に加え、難関大学等に進学できる学力と意欲を身に付けさせる。
 - * 体験的な学習を重視することにより、豊かな感性を育むとともに、社会人基礎力など実践的な力を身に付けさせる。
- ・学科等の在り方
 - * 中学生、保護者、地域等のニーズに応える魅力あるもの。
 - * これまでの国際交流（ユネスコスクール等）や地域交流等の実績を活かすことのできるもの。
 - * 府外近隣地区の中学生の受験を可能とする特色あるもの。
- ・魅力ある教育の創造
 - * 希望する進路を実現できる。
 - * 特別活動やクラブ活動が充実している。
 - * 安全安心な通学を確保できる。
 - * 障がいのある生徒等を支援できる。（自立支援コースの設置）
- ・新しい中高一貫教育のシステム
 - * 平成27年度からの能勢町の小学校・中学校の統合と併せた新たな教育づくりを進める。
 - * 連携地域を豊能町や箕面市に拡大し、幅広く生徒を受け入れる。
 - * 中高連携については、教育課程もしくは学力向上を柱とするが、地域交流、国際交流、クラブ活動等でのつながりを重視する。
 - * 連携型選抜については、中学校長からの推薦を基本とし、中学3年生の1学期末には入学予定者を決定し、2学期以降は高等学校の内容を先取りした高校教員による講習等を受講させる。
- ・能勢町からの支援
 - * 通学バスの提供。
 - * 奨学金制度の導入。
 - * 給食制度の導入。
 - * 育成会（仮称）を設置するなど、能勢高校を制度的に支援。
 - * 教員の加配、常勤のスクールカウンセラーの配置。
 - * 能勢町役場での卒業生の採用。
 - * 能勢町内での雇用の創出。